



静岡市立川原小学校

出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年5月30日(火)



「実物に触れ、体験中心の内容で、 子どもの学びに向かう姿は輝くものがありました。」

静岡市立川原小学校の6年生81人が、身近な歴史に触れ合うことを通して、社会科の歴史学習への意欲を高めることを目的に、発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験を行いました。

発掘調査と 周辺遺跡の話

埋蔵文化財センターの仕事について説明しました。その後、川原小学校周辺の遺跡について話しました。



宗小路古墳群の出土遺物などを見て、身近に遺跡があることに驚いていました。

「身近にも遺跡があるとは驚きでした。」



土器の分類体験

縄文土器や弥生土器、須恵器の3つの完形土器を見比べて、土器片を分けてみました。それぞれの土器の特徴を知ると、分けることができました。実際に発掘された本物の土器を分類する貴重な体験ができました。



「時代によって、色、模様、重さなどが違い、おもしろかった。」



石器の試し切り体験

「石で野菜が切れることを初めて知った。また、どこでもとれるわけではなく、命がけでとっていたと思うと、『大切にしないと』と思いました。」

打製石器、磨製石器、黒曜石などの本物の石器を触ったり、黒曜石で、野菜を切ったりしました。

黒曜石が貴重な石であることを聞いて、当時の大変さを感じていました。



火起こし体験

もみきり法、弓きり法、舞きり法などの火起こしの歴史を聞いた後、舞きり法での実演を見て、実際に自分たちで火を起こす準備をし、弾み車を回し始めました。この日は雨が降ったり止んだりの中での火起こしだったので、なかなか火種が出来ず苦労しましたが、なんとか火が起きました。

「火をつけるのは、こんなにも大変だとは思わなかった。火を大切にしたい。」



先生方の感想

「体験や話を通して、昔の生活への興味関心が高まっていました。様々な準備ありがとうございました。実物に触れ、体験中心の内容で、子どもの学びに向かう姿は輝くものがありました。また、土器分類は、クイズ形式で、子どもの『なんでだろう』という疑問から、色、肌触りなど見方を深める様子があり、とても良かったです。写真や実物、発問など、わかりやすく進めていただきありがとうございました。子どものメモを見ると、しっかりと理解できていたのだとわかりました。」

